

平成20年度 やまゆり保育所事業報告

1. 全体の様子

村営より民間運営の保育所に移行しての初年度であったが、保護者の方の理解を得られ、前年度同様の保育に取り組むことができた。

2. 平成20年度の主な取り組みについて

6月に、主任保育士及びクラス主任の5名が、福島市にある「鳥川保育園」にて3日間の実地研修。また、9月に中堅保育士3名が同市の「福島東保育園」にて3日間の実地研修を行い、それぞれが、当保育所の問題・課題を改善するきっかけとなり以下の内容について改善に取り組むことができた。

・改善内容

- 食後の口腔ケアの充実 → 食後のうがい励行により、習慣づけができた。
- 会議の充実 →
「月・週案会議」・「ケア会議」・「行事会議」・「給食会議」会議を小分けしたことで、より充実した内容での話し合いが行えると同時に保育士間の意思統一が行えた。
- 異年齢交流 →
全児童が会し、ホールでリズム遊び等を行う。思いやる心の育みや、集団遊びの楽しみが育まれた。
- 委員会の立ち上げ →
「業務改革検討委員会」「遊び検討委員会」「生活検討委員会」これらの委員会の活動から、保育士が、保育所をどの様に向上することができるか・・・を考え実行することができた。
- 畑づくり →
野菜を育て、収穫をした。また、その野菜を食した。秋のミニ運動会の競技では、野菜の収穫ゲームを行い畑作りに関連づけた活動につなぐことができた。また、野菜嫌いの子どもも食すことができた。
- 小分けの保育実践 →
子どもたちを小人数に分けた保育を行い、落ちついた雰囲気の中で過ごす時間を設けた。また、コーナー分けをして、遊びに集中できるように工夫した。(一つのクラスでコーナー分けをして、ブロック遊び・絵本を見る・粘土遊びなどを同時に行った)
- 薬の管理の充実 →
投薬については、管理責任が重要であることから、「お薬預かり書」を作成し、間違いのないように服用できるように努めた。
- 保育士の質の向上 →
保育指針が改定されるに伴い、毎月の職員会議に学習会を実施した。また、自己評価を実施し保育の見直しを図った。

- 保護者との連携の充実 →
保護者と共に子育てをするという意識をもち保育に取り組むことを常に周知して連携を重視した。何でも話せる雰囲気・・・苦情も気軽に言える保育所の雰囲気を目指した。
- 保育の質の向上(共通理解) →
月一回の職員会議に於いて、各クラスの現況(全体の様子・食事・排泄・生活)について、及び問題課題点を発表し、保育所全体がどのような動きがあるのかを知ることができると共に、保育所の出来事は個々人の保育士の問題として捉えることができるような意識づくりを行った。
- 各種マニュアルの作成 →
保育業務に関する事に対してのマニュアルを作成することで、基本となるべく流れを習得し応用していくことができるようにした。
- 地域住民との交流 →
「団子さし」の行事に「飯樋町老ク」の方においでいただき、一緒に団子丸めと団子さしを行い由来をお聞きしたり、昔ながらの伝承遊びと一緒に遊び触れ合うことができた。

3. 平成20年度の反省と課題

(反省)

- ・
外部の保育園の現地研修は行えたが、やまゆり保育所内研修を実施することができなかった。
- ・
保護者対象の「おやつ作り教室」の実施ができなかった。(保育参観時に試食してもらい、レシピを配布した)
- ・
「手足口病」の疾患理解が不十分であったことで、保護者の方に迷惑をかけてしまった。医師の見解の違いを理解し、子どもの体調に考慮した対応に心掛けた。
- ・
各種研修に参加しているが、復命と同時に内容をフィードバックすることが十分に行われなかった。

(課題)

- ・
保育指針をベースに、保育課程の作成・個別計画表の作成の充実を図るための勉強会が必須である。(研修への参加・県の指導を受ける等)
- ・
自己評価を実施し、個々の質の向上を目指すと共に保育所全体の質の向上を目指す。(計画的な職員会議の実施・所内研修の実施及び評価)
- ・

常に子どもたちを中心にした保育を実践し、創意工夫をした保育に取り組めるよう、委員会や会議を通して共通理解と実践を繰り返しつつ前進した取組ができるように努力する。

保育所だけが「保育の場」ではなく、家庭との延長線上に保育があるという意識を持ち、保護者との連携を充実し平成21年度は「ふれあい」をテーマとした保育に取り組む。

- 保育サロン時を利用し、ふれあい遊びを実践。(手遊び・歌・おり紙等)
- 子どもと過ごす時間を多く持ってもらえるような働きかけをする。
- 登所時：「必ず迎えに来るからね」と約束し、知らない間にいなくなるということをしなない。
- 降所時：顔を見たら「会いたかったよ」と言い最初に抱きしめて声をかける。

以上の反省と課題を踏まえ、平成21年度の事業に取り組み保育実践していきたい。

平成20年度 ばなな組報告書

1. 現況報告

(1) 全体の様子

- ・ 遊びや生活の中で約束事を守り、子ども同士で注意し合って遊ぶようになった。
- ・ 他児の様子や行動、思いを保育者を介して伝えていたが、保育者と一緒に言ったり自分の思いを他児との関わりの中で言葉にして伝えられるようになった。
- ・ 身の回りの事を自分でしようとする意欲を褒めたり援助していき、自分で出来ることが増えた。積極的にやろうとする姿がみられるようになり、保育者の手伝いも「やりたい。」と楽しんで行っている。

他児や保育者の様子を見たり様々な経験を通して、「いたいのとんでいけ、してあげる。」「かわいそうだね。」「よかったね。」「どうしてないてるの？」など共感する気持ちや思いやる気持ちを表現するようになった。

- ・ 意思表示が出来るようになり、こだわりや思いを通そうとする行動が増えた。子どもの思いや主張を保育者がじっくりと聞き、受け止めた上で諭すと納得することが出来るようにはなってきた。
- ・ 経験した出来事を思い出して、話して聞かせてくれるようになった。また、家庭でも保育所での出来事や歌などを話し知らせるようになった。
- ・ うがい、手洗いの仕方やバイ菌をやっつける事を知らせたり、保育者も一緒に取り

組んでいき、習慣が身に付いた。

- ・ 指先を使った製作や遊びを通して、ボタンかけやタオルハンカチ等を畳んだりする事に興味をもって取り組むようになった。

絵本の読み聞かせや文字ブロック遊びの時に、「〇〇ちゃんの“か”だね。」など意

識出来るように関わった事で、文字への関心がわき、「なんてよむの？」と聞いたり保育者と一緒に書いたり読める字を知らせるようになった。

(2) 遊びについて

玩具の取り合いなどのトラブルが多くみられたが、保育者が仲介をする事を経て、「かして」「いいよ」「あそんだら、かしてあげる」など言葉で思いを伝えることで、貸し借りが出来るようになった。

- ・ 一人遊びから誘い合って少人数のグループで遊ぶようになり、ごっこ遊びに展開して行く事が多くなった。ごっこ遊びの内容も人形やブロックで作った小道具を使ったり、ダンボールや風呂敷等の環境を活用して見立てて遊ぶようになった。
- ・ 好きな絵本を繰り返して読んでもらうことを楽しむようになった。

戸外遊びや全身を使った遊びを通して、体力、筋力が付き徒歩で探索出来る範囲が広がった。

クラス内で他児の前に出て歌や手遊びをして見せたり、他クラスで踊りを披露して表現する楽しさを経験していった。

(3) 食事について

給食を一品ずつ食べていたり偏食が多かった子も、保育者が美味しそうに食べて見せたり、少しでも食べられた時に褒める関わりを続けていくうちにまんべんなく食べられるようになった。

- ・ 野菜栽培を経験して、給食に育てた野菜が入っていることを知らせると、苦手だったトマトやナスが食べられるようになったり少しでも食べようとする姿が見られるようになった。

フォークを逆手に持って使っていた子も、持ち方を知らせたり褒められた事が自信になり、「こうやってもつんだよね。」と他児にも教えあって上手に持てるようになった。

- ・ 食後、口や手がきれいになったかを意識しながら拭くようになった。

(4) 排泄について

- ・ 保育者が個々の排尿感覚をつかみトイレに誘ううちに、子ども自身も感覚が分かり自分からトイレに行くようになった。
- ・
便器での排泄から男児は立ち便器での排尿に移行をしたが、「おにいちゃんみたいだね。」と声を掛けたりする事で、喜んで立ち便器を使用するようになった。始めのうちは排尿し易いようにとお尻を押ししたり等、援助をしていたがコツをつかんで自分で体勢をとって出来るようになった。
- ・
女兒はトイレットペーパーの取り方やだいたいの長さを知らせ、一緒に行っていくうちに自分で取って拭ける様になった。
- ・
排便後のお尻の拭き方も知らせ、確認をしながら「上手に拭けたね。」「こうやって拭くといいんだね。」と出来た喜びを共感しながら取り組み、始めのうちは「ふけないよ。」と言っていた子も自分から拭いて見せてくれるようになった。
- ・
ズボン、パンツを脱がずに膝まで下ろした状態で排泄出来るように声をかけ、やり方を知らせたり尿がかからないように見守っていくと、便器の側に行ってから下ろして排尿するようになった。
- ・
午睡時パンツで寝る子は排尿してから午睡しているが、オムツで寝る子も尿意を感じて排尿してから午睡するようになり、午睡後オムツに排尿していない事も多くなった。
- ・
午睡中でも尿意を感じて目覚め、排尿する子もいる。

(5) 午睡について

- ・
保育室内のブラインドをすべて閉めて薄暗くしたり、午睡中は電話を別室に移す、戸の開閉の時の音に気を付ける等、安眠できるように環境を改善したことでぐっすり眠る事が出来るようになった。
- ・
午睡用のカーテンを子ども達が入眠後開けるようにしたところ、午睡途中で目覚めても保育者を確認して2度寝するようになった。

《反省》

- ・
イソジン液でうがいをしたり、保育室内の温度、湿度に気を付けて過ごしたことで健康に過ごすことが出来た。
- ・ いいたてホームへの訪問やだんごさしでの老人クラブの方との交流で、遊びを教え

て頂いたり話をして触れ合えたことは良い経験になった。

・

畑での野菜作りを通して、野菜の成長を楽しみにして水やりをしたり「もうすぐ食べられるかな。」と期待感を持って観察をしたり、野菜を触って感触も知ることが出来た。また、収穫する喜び・食べる喜びも体験することが出来てよかった。

・

子ども達の声に合わせて、保育者が大きな声で対応していたことで落ち着かない雰囲気を作ってしまった。声の大きさを改善し、気を付けるようにした。

・

家庭からの連絡事項や子どもの様子の伝達漏れがあったので、メモノートに記入することにして取り組んだことで改善された。

・

連絡帳の入れ間違いがあり、荷物の確認を2回することにしたが徹底されておらず再度話し合い、検討して降所時にも確認することにした。

1. 全体の様子について

4月当初は、好きな遊具を見つけるとその場を動かずに遊ぶ子が多かった。しかし、現在では好きな場所・遊具を見つけて遊び、子ども同士の関わりも増えてきている。

進級や新入によりクラス内の入れ替わりが多かったが、戸惑うことも少なく、「〇〇くん」「〇〇ちゃん」など名前を呼んで関わろうとする姿が見られる。

指差しや一語文で意思表示をしていた子も、保育士や他児に短い言葉などで思いを伝えようとするようになった。

給食後のうがいは、始めた頃は水を飲んでしまう子がほとんどだった。しかし徐々に、食べ終わると保育士に誘われなくても水道に向かっていき、うがいが出るようになった。現在では、食前にもうがいを行なっている。

手洗いについては保育士が手を添えながら洗い方を伝えている。現在は、少しずつ手を洗ってから消毒液に手を付けるという一連の流れが一人でも出来るようになってきている。

2. 遊びについて

散歩に出掛けると、歩行が不安定だということもあり散歩車に乗りたがる子が多かった。しかし、月齢が上がるにつれて体力も付き自分から歩きたいとアピールする子も増えてきた。最近では、保育士と手を繋いで歩くのも上手になり長い距離も歩けるようになっている。

ままごと遊び・・・皿に乗せた食べ物を保育士に差し出し、「あついよ」「あまいよ」等のやり取りを楽しんでいる。また、ぬいぐるみを赤ちゃんに見立てハンカチを掛けたり、おんぶしたりすることも楽しんでいる。

ブロック遊び・・・長くつなげるだけの遊びから、飛行機・お弁当箱・冠などに見立てての遊びに広がってきている。保育士に「これは何？」と聞かれると、見立てたものを言葉にして伝えることも出来るようになってきている。

3. 食事について

食事の量も増え、おかわりも沢山するようになった。また、おかわりをする際には「ちょうだい」や「おかわり」と保育士に伝えることも出来るようになっている。

- ・ 食前、食後の挨拶を、保育士の声掛けに合わせて手振りだけで行っていた子も、少しずつだが語尾を真似して言えるようになってきた。

- ・ おやつ後の挨拶は、月齢差が広がったので、状況に応じて一人ひとりの食べるスピードに合わせて行なうようにした。

- ・ おやつに入った袋を開けたり、みかんの皮むきなど保育士の様子を見ながら自分でもやってみようとする姿が見られるようになった。

- ・ おかわりを保温容器に入れたことで、温かい状態で食べれるようになり、衛生的にも良い。

4. 排泄について

- ・ 8名（進級・退所者を含む）がパンツトレーニングを行なう。間隔をつかめずに漏れてしまった子も、少しずつ「でちゃった」と教えられるようになり間隔も長くなっていった。また、間隔表を作成し記録をつけることで、保育士間も間隔を把握することが出来て良かった。

- ・ 保育士に援助されながら、オムツやズボンに足を通そうとしたり、上げ下げを自分でもやってみようとする子が増えた。

- ・ スリッパ、マット、便座カバーを使用していることで冬場はとても暖かくて良い。スリッパは、履いてから便座に座るという習慣が子どもたちも身に付いてきている。

- ・ 「でてる」「でない」と言葉で言ったり、身振りで自分の意思を保育士に伝えようとする子が増えた。

5. 午睡について

- ・ 音に敏感で午睡時間が短い子も多かったが、活動量も増えたことでぐっすりと眠れるようになってきている。カーテンも一箇所は開けておくので、目覚めた時に保育士の顔が見え、安心して二度寝もできている様子。

- ・ ほとんどの子が、保育士がそばにいと安心して布団に入り眠ることができる。進級してきた子でも、部屋が変わったことに戸惑うことなく午睡できていた。

- ・ 布団に自分から入り、掛け布団を引っ張りながら自分で掛けようとする子がいる。また、布団の片付けにも興味を持ち、保育士の様子を見ながら一緒にたたもうとする子が多

い。

- 人数の増加に伴い、布団ケースを移動し布団を敷くスペースを広くした。カーペットの上よりも冷えが少なく良い。

6. 反省

- 誕生会やにこにこ会などを通して異年齢で関わる機会も増えた。遊びを真似したり月齢の低い子を可愛がろうとする姿も見られるようになり、普段とは違った様子を見ることが出来た。

- 子ども同士の関わりが増える中で他児の存在にも気付くようになり、自分のものやマークシールなども分かる（区別できる）ようになった。

- 新たな活動や取り組みをすることが、子どもたちの成長にも大きくつながっていることを実感した。また、保育士にとっても発見や気づきの機会になった。

- ひとり遊びが中心だった子ども、現在は他児との関わりを楽しんで遊んでいる。保育士が仲立ちに入ることによって遊びが広がったり、新たな遊びの展開につながったりすることを実感することが出来た。

- 成長の過程で、言葉がうまく出ないことから噛み付き等のトラブルにつながるがあった。その都度保育士間で話し合うだけでなく、所長や主任にも助言をいただきながら、保護者にも子どもの様子やクラスでの取り組みを伝えていくようにした。

また、噛み付き等を防ぐ為に保育者間での声掛けを密にするだけでなく、すぐに止められる場所で子ども同士の関わりを見守るようにした。

平成20年度 いちご組 報告書

前半（4月～9月）の反省

さくらんぼ組

《遊び》

- 初めのうちは、月齢が低く1日に2～4回午睡をすることもあり、乳児室での生活が多かったが、保育者も慣れ、徐々に月齢も上がったことにより乳児室だけではなくなかよしホールでの遊びも少しずつ増やしていった。

- ベッドに玩具を吊るしたことで、ミルク後のお腹休めも無理なく喜んで遊べるようになった。

ベッドの台数を減らしたことにより、広いスペースで遊べるようになり、乳児室での遊びも楽しむことが出来ていた。

・

なるべく、腹這い→ハイハイ→つかまり立ち→伝い歩き→歩行の順となるように、1人1人に合った遊びを取り入れた。すぐに歩かせるのではなく、時間を掛けてじっくりとハイハイの時期を過ごせた。

《午睡》

・

寝起きに泣く子が多かったが、ベッドの向きを変えたことで、目覚めた時に保育士が見えて、安心して目覚める子が増えた。

・

腹這いでの遊びを意識的に取り入れたり、なかよしホールでの活動を増やしたことにより徐々に午睡もまとまって眠れるようになってきた。

《食事》

・ 食事の最後に湯冷ましや麦茶を与え、虫歯予防に努めた。

・

噛まずに飲み込んでいる子やおかゆを嫌がる子などいたが、家庭の様子を聞いたり相談をしたりして離乳食を進めた。子どもたちの食事の様子をしっかりと見ることによって、無理なく楽しく食事が出来ていたように思う。

《排泄》

・

お尻の荒れている子が多く、こまめに交換をしたり座浴を行い悪化しないように努めた。また、保護者へもその都度伝えた。

・

寝返りが始まると、排泄台でも寝返りをしたが排泄を嫌がる子もでてきた。牛乳パックで作ったうちわを排泄用に用意すると、喜んで遊び嫌がらずに交換が出来た。

・

排泄時の少しの時間も触れ合ったりすることで、1対1の関わりを持てるようになった。

《反省》

・

新入児が次々と入り、クラスの雰囲気なかなか落ち着かなかったが、1対1の関わりを大切にして保育を進められたので良かった。子どもの様子を見ながら玩具を変えたり増やしたりした。保育士間の意思疎通が出来るとより良い保育に繋がると感じた。

いちご組

《遊び》

・

真似したい、一緒に遊びたいという思いから、玩具の取り合いも目立ったが、保育者がすぐに仲介に入らず「かしてだよ」など声掛けをして見守る態勢をとるようにすると、

「かして」「いいよ」「どうぞ」のやり取りが少しずつ増えた。

- ・
- 指先を使った遊び（キャップをつなげたもの、スティック落としなど）手作り玩具でじっくり遊ぶことが出来た。その為集中力もついた。
- ・ 戸外遊びを沢山取り入れることが出来た。

《午睡》

- ・
- 保育室と午睡室の戸を開けておくようにしたところ、寝ている時間も長くなったり、泣いて目覚める子などは保育者が見える位置に布団を敷くことで、目が覚めても安心して2度寝が出来るようにまでなった。

《食事》

- ・
- おやつは袋物は袋のまま、果物は皮がついたまま子どもたちに渡し、食べ方を繰り返し教えていくことにより、少しずつ上手に食べられるようになった。
- ・
- 「自分で」という子どもたちの意欲を大切にしながら手づかみ・スプーンでの食事を促してきた。持ち手に合わせてスプーンを置いたり、食品をすくっておくなどし、見守る態勢を取るようにした。
- ・
- 食後のうがいを始め、飲んでもいいので繰り返し行い、習慣づくようにしてきた。吐き出す真似をしながら少しずつうがいに慣れていった。

《排泄》

- ・
- 「おいで」「行こう」の声掛けでトイレへ自ら行けるようになった。また、保育士が「行ってらっしゃい」「おかえり」の声掛けをして子どもたちを迎えに行ったりするようになった。行きやすい雰囲気を作ったことで、嫌がることなく手を振ってトイレへ向かう子もいた。
- ・
- 衛生面にも気を配り、全員の排泄終了後、ベルコムを便器周りに吹きかけ雑巾で拭くようにしたり、排泄後はベルコムを水で薄めたものを手の平、足裏に塗った。

《反省》

子ども一人ひとりの話し合いは保育士間だけではなく、補助員とも共通理解をした上で行ってきた為、全体的にまとまりがあった。2人担任ということもあり、一人ひとりについてじっくり話し合いをもてた。

歩き始めの子が多く、常に怪我に注意を払ったと同時にバランスを良くする為にハイハイ運動を取り入れたり戸外でもシートを敷いてのびのびと動けるように工夫をしてきた。新しいことに沢山挑戦し、良い面悪い面が見えた上で、次へのステップに繋がるきっかけが出来たのではないかと思う。

後半（10月～3月）の反省

《遊び》

○

年齢も低いこともあり、室内での活動が多かった。その為室内での遊びが充実出来る様に取り組んだ。絵本や歌を多く取り入れ、体の面では足腰の強化に主に力を入れて保育にあたってきた。

・

合同になり行動範囲が広がったことにより、ハイハイの量も増えた。その為か、歩き始めの子も足取りはしっかりしていた。

・

歩行が出来る子が増えても、トンネルやマットなどを使用し遊んだ。月齢が低くても遊ぶことが出来、楽しみながら腕や足の強化に繋がられた。

・

クレヨンやペン、たんぼやぬたくりなど様々な造形遊びを取り入れたり、小麦粉粘土・新聞紙スズランテープ・マット・シート・風船など、多様な素材や玩具での遊びを取り入れたり、繰り返し遊ぶことで子どもたちも楽しんで遊びに取り組んでいた。

・

さくらんぼ組といちご組が合同になったことにより、月齢の幅が広がった。高月齢児は、低月齢児に玩具を貸したり頭をなでたりする姿が見られるようになった。

《午睡》

○ 安心して眠れる環境を作りながら、少しずつ1度寝に出来るようにしてきた。

・

合同になったことにより、低月齢児は早い段階で床寝に移行することが出来た。家庭でも床寝の子が多く安心して眠れる子が多かった。

・

目覚めた時にすぐ側に保育者が居ることで安心して2度寝も出来た。

・

活動の充実もあり、体力がついてきて午前睡をする子が減り午前の活動を十分に楽しめるようになってきた。

《食事》

○

離乳食を始める大事な時期でもあったので、初めての味などに少しずつ慣れながら、食事の時間が楽しいものになるように心掛けた。

・

合同になり保育者の手が増えたことにより、食べさせる形が多くなってしまったが、話し合いをし、なるべく自分で食べられるようにしたきた。

・

保育者が一緒に給食を食べることによって、子どもも意欲的に食べることもありいい刺激になった。

・

家庭と相談し子どもの様子を見ていくことでミルクを減らしたり徐々に無くして、無理なく離乳食を完了することが出来た。

子どもの成長や人数に合わせてテーブルの向きや配置を見直したことで落ち着いて食べられたり、他児の様子をみながら意欲的に食べられるようになった。

食後の口拭きを嫌がる子がいた。おしぼりをレンジやお湯で温めてから口を拭くようにすると、嫌がる事もなく、気持ち良くきれいに拭けるようになった。

《排泄》

○

肌の敏感な子が多い為、肌の状態に気を配ると共に、トイレトレーニングに向けての意識を感じられるようにした。

歩ける子は手を繋ぎ、歩けない子でもトイレに行こうねと声を掛けてトイレに誘った。また、寝かせたまま行う排泄から、少しずつ座ったり立っての衣服の着脱、自分でズボンやオムツを上げられるようにまでなってきた。便器に座ることに慣れ、排尿する子も多く見られる。

尿の回数チェックは子どもたちの排尿間隔を知る上でも良かった。また、遅番で出勤してきても一目で分かり良かった。

・ 排泄後の手洗いも徐々に習慣づいてきた。

《反省》

合同になり、保育士・職員の人数が増え共通理解をするのに大変な部分はあった。また、伝達漏れも始めは多かった。伝達用紙を使用したことで徐々に改善されていった。荷物（着替えなど）の返し間違いが多かったので早番で確認し降所時にも遅番が確認して返すことに決めた。

月齢が低く、不調を言葉に出来ない為、健康面には十分に気をつけた。小さな変化を見逃さ無いように心掛け、変化があった時には保護者へも伝え登所時にも家庭での様子を聞いた。検温表を作成したことで体温の変化が分かりやすくなり平熱も把握しやすかった。加湿・換気をこまめに行い快適に過ごせるようにした。衛生面にも十分に配慮をして進めてきた。オムツ換えバスタオルは午前と午後で交換したり、水分補給も沢山したのでコップを毎日薄めたハイアミンにつけるようにもした。玩具も毎日清浄・洗浄を行ったので安心して玩具を提供出来た。

部屋が分かれている為、保育者の動きに子どもたちがとても敏感だった。特に保育者が乳児室に行くことには敏感に反応していたため、朝の時間も落ち着かなかったが、低月齢時の連絡帳をいちご組保育室に保護者に置いていただくことで保育者の動きが減り、だいぶ落ちついた。

保育室にマットと長座布団を置くと、くつろぎの場となり子どもたちはとても喜んで寝

転がったり絵本を読んでいた。保育者の動きが落ち着くことにより子どもも落ち着いていたり、環境構成の大切さを感じた。

部屋が分かれていたり、保育士の人数が多いことで大変な部分も多かったが、分かれている利点を活かした保育に取り組めたと思う。保育士が多い分、様々な保育に取り組み、子どもにも保育士にも良い刺激になったと思う。工夫や試行錯誤を繰り返しながら保育にあたりそれぞれの保育士が考え、子どもたちからも遊びの展開を広げるヒントを得たりしながら楽しめてくれたと思う。絵本や歌・室内遊びに力を入れてきたと共に、子どもとの信頼関係を大切にしてきた。だが、ただ抱っこをしたりするのではなく、その子が今何を求めているのか、何が必要なのかを考えて保育をしてきた。抱っこをしたく強い甘えが出てきたときにも話しあって対応をした。色々な意見を出し合い、どうすれば良いかを常に話し合いながら進めてこられたので良かったと思う。こうすればよかった、という反省点も沢山あるが反省点を生かしこれからの保育に繋げていきたい。

月日	ねらいと想定	参加人数	
4/25(金)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時の合図を知る。 ・避難訓練の意味を知る。 <p>【想定】</p> <p>火災[北側民家] (一斉指導時)</p>	<p>さくらんぼ 8名</p> <p>いちご 5名</p> <p>みかん 9名</p> <p>ばなな 13名</p> <p>計 35名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常室 ・保育室

5/26 (月)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを中止し保育者の元に来る。 ・避難時の約束を知り、指示により避難する。 <p>【想定】</p> <p>火災[東側民家] (一斉指導時)</p>	<p>さくらんぼ 8名</p> <p>いちご 4名</p> <p>みかん 9名</p> <p>ばなな 12名</p> <p>計 33名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に ・保育者 ・避難す
6/25 (水)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震に対する避難の仕方を知る。 <p>【想定】</p> <p>地震 (一斉指導時)</p>	<p>さくらんぼ 6名</p> <p>いちご 5名</p> <p>みかん 9名</p> <p>ばなな 12名</p> <p>計 32名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度 ・地震時
7/25 (金)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午睡中、目を覚まし指示に従い避難する。 <p>【想定】</p> <p>火災[集会所] (午睡中)</p>	<p>さくらんぼ 5名</p> <p>いちご 6名</p> <p>みかん 11名</p> <p>ばなな 13名</p> <p>計 35名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡中 ・保育士 ・問い掛 ・いちご
8/22 (金)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合図や指示を聞き落ち着いて行動する。 ・屋外への二次避難の仕方を知る。 <p>【想定】</p> <p>火災[東側民家] (一斉活動時)</p>	<p>さくらんぼ 7名</p> <p>いちご 7名</p> <p>みかん 12名</p> <p>ばなな 12名</p> <p>計 38名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら ・どのク

月日	ねらいと想定	参加人数	
9/25 (木)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予告なしで合図を聞き地震に対する避難の仕方を知る。 <p>【想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 <p>(一斉指導時)</p>	<p>さくらんぼ 9名</p> <p>いちご 7名</p> <p>みかん 13名</p> <p>ばなな 12名</p> <p>計 41名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご ・みかん ・テー

10/27 (月)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予告なしで非常の合図を聞き、保育者の元に集合し落ち着いて避難する。 <p>【想定】</p> <p>火災[東側民家] (一斉活動中)</p>	<p>いちご 10名</p> <p>みかん 8名</p> <p>ばなな 14名</p> <p>計 32名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署 ・二次避難 ・消防車 ・残留園児
11/25 (火)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常の合図で午睡から目覚め、保育者の元に集合する。 <p>【想定】</p> <p>地震 (午睡中)</p>	<p>いちご 10名</p> <p>みかん 12名</p> <p>ばなな 14名</p> <p>計 36名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご ・どのクラス ・午睡中
12/25 (木)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防寒着を着けての避難方法を知る。 ・静かに指示を聞く。 <p>【想定】</p> <p>火災[北側民家] (一斉活動中)</p>	<p>いちご 12名</p> <p>みかん 13名</p> <p>ばなな 15名</p> <p>計 40名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒着 ・避難中 ・集まる
1/26 (月)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雪時の避難の仕方を知る。 <p>【想定】</p> <p>火災[北側民家] (一斉活動時)</p>	<p>いちご 13名</p> <p>みかん 15名</p> <p>ばなな 16名</p> <p>計 44名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒着 ・いちご ・みかん
2/25 (水)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雪時の避難の仕方を知る。 ・落ち着いて避難する。 <p>【想定】</p> <p>火災[南側民家] (一斉活動時)</p>	<p>いちご 12名</p> <p>みかん 14名</p> <p>ばなな 17名</p> <p>計 43名</p> <p>職員 11名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帽子か ・合図の ・保育士

月日	ねらいと想定	参加人数	
----	--------	------	--

3/17 (火)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難する際の約束事を守り、速やかに避難する。 ・火災や地震の恐ろしさを知る。 <p>【想定】</p> <p>地震 (一斉活動中)</p>	<table> <tr> <td>いちご</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>みかん</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>ばなな</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td>職員</td> <td>11名</td> </tr> </table>	いちご	9名	みかん	14名	ばなな	16名	計	39名	職員	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署 ・テーブル ・ビデオ ・避難時
いちご	9名												
みかん	14名												
ばなな	16名												
計	39名												
職員	11名												

《まとめ》

- ・ 訓練の最中は緊張感もあり、子ども達もふざけたりせず行えていた。
 - ・ 集まって話を聞く時や、二次避難場所まで移動する際に、ふざけたり、話しをしたりする事があり、緊張感に欠けていた。
 - ・ 電気を消したり窓を閉める事を忘れがちだったが、保育者間で声を掛け合う事で確認する事が出来た。確認する事が出来たが、それでも忘れてしまう時もあるので、常に頭の中に入れておく様にする。
 - ・
- ヘルメットを常備した事で、少しでも危険を回避する手立てとなった。訓練中、残留園児確認の時に使用している。
- ・
- 地震の訓練では、初めはテーブルの下に潜る訓練を行い、次第にテーブルだけでなくその時の状況に応じて布団を被ったり、棚等の下に避難する事が出来た。

常笛を鳴らし集まる訓練で、本番鳴らなかったというクラスがあった。事前に調べておいても鳴らなかったのには残念だったが、常に非常笛が鳴る避難時にまだ歩き始めたばかりの子の手を引いて避難するのは子どもにとっても困難なので、おんぶ紐の準備も欠かせないことに気付いた。また集まる不審者発見時、携帯電話を使用して連絡する態勢をとった。

すまたの使い方を実演する。事務長に不審者役を依頼。不審者の対応で不審者がどんどん室内に入ってくるのをさすまたで押さえるのは力が入り、力のない組では「はしらない、おしゃべりしない」と子どもの方から声上がり、練習の成果を感じ嬉しかった。

警察を依頼した。いちご組で合図を聞き突然泣き出す子がいたがおんぶ紐を用いてすぐに対応することが出来た。どのクラスも人数の確認を職員間で進め、すまたの位置について全職員がどこにあるのかを把握しておくことが大切である。不審者に対応する際、職員用の椅子を使用したがる不審者との向きから押さえることを警察の方から学んだ。

《まとめ》

- ・
いつどこから侵入して来るか分からないのでクラスや職員間で対応の仕方を話しあっておくことが大切だと思った。また全職員がさすまたの使い方を体験出来たら良いと思う。
- ・ 避難時に怪我をする子もいず、職員間で連携も取れていて良かった。

平成20年度 交通安全に関する報告

日程	ねらい	参加人数	反
5月15日(火)	交通のきまりを知る。	計 20名 ばなな組 10名 みかん組 8名 いちご組 2名 さくらんぼ組 0名	<ul style="list-style-type: none"> ・車が来るとすぐに反応出来ていたのがよかった。 ・横断歩道で手をあげて渡る事が出来なかったのが残念。 ・保育者の指差す方向を見るなど、子ども達の目線に合
8月28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の歩き方を知る。 ・正しい横断の仕方を知る。 	計 35名 ばなな組 10名 みかん組 12名 いちご組 7名 さくらんぼ組 6名	<ul style="list-style-type: none"> ・警察官と保育士の話をしっかり聞き、受け答えをして ・実際に横断歩道を渡る事で、渡るときの約束事を再 ・手を上げたまま、左右確認をするのは難しいと感じた ・ペープサートなどがあり、集中して話を聞く事が出来た

《反省》

- ・ どのクラスも共通して、散歩の時には「道路の端を歩く」「左右を確認する」道路を渡るときには手を上げる。「車が来たら、止まる。」等の約束を子ども達に知らせ、守りながら保育にあたる事が出来た。
- ・ 初めは手を上げて道路を渡る事が出来なかったが、日々の積み重ねや経験により、徐々に交通のきまりが身に付いてきたように感じる。
- ・ 飛び出しや接触による事故もなく、無事に一年を終える事が出来て良かった。

平成20年度 食育年間状況

1. 各クラス

<ばなな組>

- ・ 食べられる食材や量が増えた。

・

畑で作った野菜や、じゃがいも、さつまいも掘りなどで収穫したものを給食で食べることが出来て良かった。

・

畑での野菜作りを通して、野菜を育てること、育てて食べることを経験できて良かった。育てる喜び、味わう喜びを体験出来た。野菜などが食べるのが苦手だった子も野菜作りを通して、トマト、ナス、を食べることが出来るようになった。

<みかん組>

・

時々だが、畑に水をあげたり、収穫したトマトをその場で食べたりすることが出来、良い経験になった。間近で収穫の様子なども見られた。

・

誕生会では、全クラスでおやつを食べる機会があり、異年齢交流にもなり、良かった。

<いちご組>

・

離乳食、幼児食の状態などを一人ひとりに合わせ、食事をするのが楽しい時間となるようにした。

・

家庭と相談をしながら、離乳食を進めた。子どもの状態に合わせて段階を戻すなど、そのときに応じて対応し、無理せず進められ、美味しく食べられた。

・

自分で食べようとする気持ちを大切にしながら、少しずつコップやスプーンに慣れるようにした。特にスプーンは、集中して言葉をかけたり促したりする子を決め、少しずつ使えるようにすすめた。

2. 行 事

- 愛情弁当の日（5月15日、11月20日、2月6日）

食事の前からとても楽しみにしている姿が見られた。保護者も、子どもがおいしく食べられるような工夫をしていた。

- 園外保育（9月6日）

戸外でお弁当の給食を食べた。いつもと違う雰囲気、美味しく食べられた。弁当の中身も、子どもが食べやすいように工夫した。

- 誕生会（11月19日、12月19日、1月20日、2月20日、3月19日）

デコレーションしたケーキやおやつを用意し、誕生日の雰囲気を味わえた。また、11月からは誕生会を月1回にし、全園児が集まって一緒に食べる機会も設けた。

- じゃがいも掘り（7月23日）、さつまいも掘り（10月14日）、畑で野菜の収穫

土に触れる機会が持てて良かった。自分達で野菜を収穫することで、食への関心をもつことが出来た。

- 給食試食会

年7回実施。毎回、和やかな雰囲気の中行えた。また、家庭での食事に関する話などもすることが出来た。食後にはアンケートを行い、今後の献立の参考にした。実施日と参加人数は以下の通り。

実施日	5月10日	6月14日	7月12日	8月9日	9月13日	1月17日	2月14日
参加人数	2名	1名	3名	3名	1名	4名	4名

3. その他

- 給食会議の実施

5月より、月に1回、年11回実施。会議を開くことにより、各クラスからの意見を聞き、栄養士や調理員など交えることで、細かな話し合いをすることが出来た。

- 給食アンケートの実施（9月、2月の年2回）

給食に関する保護者の意見を知ることができ、また、アンケート結果を、食育活動や、献立の参考にした。

4. 全体の反省

5月からだったが、給食会議を設け、毎月栄養士、厨房職員を含めた話し合いを行った。そのことにより、離乳食や野菜等の刻み方、味付け等に至るまでの細かな改善に取り組む

ことができた。また、保育所全体で、食育に対する取り組みに共通理解をすることが出来たと思う。

中庭に畑を作り、野菜の収穫をすることで、食べ物に関心を持ち、食べられなかった野菜を食べることが出来た。また、実際に目で見て手で触れ、臭いをかぐことが出来、五感を培うことが出来た。

平成20年度「保健」に関する状況報告

○ 健康管理について

- ・
保護者からの問診や家庭状況調査表から、発育状況や体質などを把握し保育にあたった。
- ・
イラストを用いて、手洗いの仕方を各クラスの手洗い場に掲載、手洗いの意識づけをした。
- ・ 衣類の調整を行い、汗をかいたらこまめに衣類交換を行った。
- ・ 夏に限らず、麦茶を常備し十分な水分補給を心掛けた。
- ・ 健康状態を把握し、疲労がたまらないように配慮した。
- ・ 少しの時間でも戸外に出て遊ぶように努めた。
- ・ 食前食後のうがいの励行、2歳児は外出後のイソジンによるうがいにも取り組んだ。

○ 家庭との連携について

- ・ 登所時に家庭での様子を聞き、保育所での様子は連絡帳に記入し、また降所時に口頭でお伝えした。
 - ・ 玄関に「保健だより」コーナーを設け、季節に応じた病気に関する内容の記事を掲示し、家庭にも分かりやすいように伝えた。
- 環境整備について
- ・ 安全点検を毎月行い、事故が起きないように安全に過ごせた。
 - ・ 玩具の消毒や洗浄、週に1度の保育所内の次亜塩素による消毒を行い、感染予防に十分努めた。
 - ・ 温室時計を設備し、冬期は加湿器を使用し換気に配慮し感染予防に努めた。
- 健診・検査について
- ・ 毎月の発育測定・年に2度のぎょう虫卵検査、年2回の内科・歯科健診、年1回の眼科健診を実施し、子どもの発育や健康状態を家庭へ伝え異常がある場合には医療機関への受診を勧めた。
- 職員の健康管理について
- ・ 乳幼児クラスに関わる職員の保菌検査を毎月行った。また、冬期に2回のノロウィルス検査を実施した。
 - ・ 職員間で手洗い実践の勉強会を行った。
 - ・ 子どもの排便介助時に、専用エプロン及び使い捨て手袋を使用し感染予防に努めた。
- 感染症対策委員会
感染症対策委員会に出席し、様々な感染症や、その対処方について学んだ。

4月	年間計画及び手洗いうがいの推進
5月	感染症について 感染症を予防するには手洗いうがい、また、バランスのとれた食事や十分な睡眠などで抵抗力をつける。 職員で、手洗いと手指消毒液のマニュアルを見て手洗いの方法を実践をしながら確認をした。
6月	食中毒の予防と対策 食中毒についての会報も掲載した。

7月	手洗いの基本について 手洗い後、ペーパータオルの使用の徹底。 子どもも、タオルを毎日交換をするようにした。 夏に罹りやすい感染症についてほけんだよりを発行した。 (ペルパングーナ、手足口病、プール熱、とびひ、熱中症)
8月	結核について 会報発行
9月	インフルエンザについての対策
10月	インフルエンザについての会報発行
11月	感染を予防するためには 会報発行 職員のインフルエンザ予防接種を行った
12月	感染性胃腸炎について 汚物の処理法、使用済み手袋の脱ぎ方
1月	「レジオネラ症」について 加湿器を清潔に保つ
2月	病原体から体を守る為に
3月	1年間の反省

(反 省)

今年度の目標であった「子ども一人ひとりの心身の状態や発育・発達状態を把握し、健康で安全に過ごすようにする」となるように努めてきた。しかし、健診結果を家庭に伝えることが、スムーズに行うことが出来なかった。また、「ほけんだより」の掲示をこまめに行うことが出来なかったため、もう少し情報をお伝えできるようにできれば良かった。

イソジンでのうがいを行うことで、風邪の予防が出来た様にも思われ、インフルエンザの発症も2名にとどまったことも、うがいや手洗いの励行が成果となって表れたのではないかと思われる。

平成20年度 図書に関する報告

前年度に引き続いて“本の森”から絵本の貸し出しをしてもらったが、1回だけだったので、絵本の入れ替えも無かった。数回、絵本の入れ替えがあれば、もっといろいろな絵本を見たり出来たように思う。

また、保育所内でも各クラスの年齢に応じた本をそれぞれのクラスに分けたが、本の入れ替えもなかったため飽きてしまうこともあった。ばなな組は子ども達が自由に取って読める本棚に入れて見れるようにしていたが、絵本の入れ替えのサイクルが少なかったため新鮮味

に欠けてしまい、飽きてしまっているように感じた。

次年度は“本の森”からの貸し出しを何回かに増やせるとよい。また、部屋の中でも絵本の入れ替えのサイクルをこまめにしていきたい。各クラスで絵本を読むだけでなく、にこにこ会など全クラスが集まる機会などに絵本を見る機会を設けるなど出来ると良いのではないかと思う。

平成20年度 にこにこわんぱく会の反省

月日	場所と時間	内 容	反 省
----	-------	-----	-----

11/19 (水)	【場所】 なかよしホール 【時間】 15:30~	誕生会 「山のおんがくか」	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス合同の誕生会になり、にこにこわんぱく会から子ども達を交えて楽しめる出し物を披露する事となった。 ・アンコールの音が聞かれたり、動物に扮した保育士が退場すると泣いてしまう子がいたり、子ども達も保育者も楽しむ事が出来て良かった。反応も良かった。 ・お面など製作物を使用した事で、子ども達の興味を引くことが出来た。 ・ピアノ伴奏に合わせみんなで歌う事が出来た。
12/19 (金)	【場所】 なかよしホール 【時間】 9:00~	誕生会 「つくろう、つくろう、クリスマスケーキ」	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに手遊びを決めて各クラスに伝えられると良かった。クラス内で手遊びが浸透していなかったため、当日振りを覚えていない子もいて、全員で楽しむ事が出来なかった。 ・今回の手遊びを楽しむ事が出来なかったため、次回のにこにこ会に、もう一度行う事にした。
12/24 (水)	【場所】 なかよしホール 【時間】 10:15~	にこにこ会 「こんこんくしゃん」 「つくろう、つくろう、クリスマスケーキ」 『エビカニクス』	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス集まり、遊ぶ時間を「にこにこ会」として設けた。 ・手遊びは普段クラス内で取り入れていた為、全員で楽しむ事が出来た。「つくろう、つくろう、クリスマスケーキ」の手遊びも口ずさみながら、行っていた。 ・クラスで座ることにこだわらず混ざって座ったので、異年齢児との交流を深める事が出来た。 ・歌やリズム遊びだけでなく、ゲームやわらべ歌遊び等も取り入れられると良いと思う。
1/23 (金)	【場所】 なかよしホール 【時間】 9:15~	誕生会 「いっぴきの野ねずみ」	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士が穴に落ちるところの動作が大きくて、子ども達も喜んで見ていた。手遊びをするだけでなく、見て楽しむ事が出来た。
1/28 (水)	【場所】 なかよしホール 【時間】 10:10~	にこにこ会 「むすんでひらいて」 『ちびっこまん体操』	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は動きもある手遊びだったので、立ったまま行った。とても楽しめて良かった。 ・リズム遊びでは、保育士が次に行う動作を声に出して伝えていたので、分かりやすかった。 ・ふざけてしまう子もいたが、約束事は作らずに行っていく。約束事を作ってしまうと、動きが制限されてしまうため、危険なときのみ注意をする様にしていく。
2/13 (金)	【場所】 なかよしホール 【時間】 10:10~	にこにこ会 「えりまきこれっくらい」 『ラーメン体操』	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで保育士と子ども達が対面式で行っていたが、今回は円になり、中心に担当の保育士がいる様にした。円になっているため、全体を見る事が出来た。子ども達もお互いの表情が見れて楽しそうだった。 ・手遊びはクラスで何回も取り入れていたので、楽しんでいた。 ・お面をばなな組だけ着けたが、他クラスの子も被りたい子がいたので、全クラス統一出来れば良かった。

2/19 (木)	【場所】 なかよしホール 【時間】	誕生会 「はなれないふたり」	・馴染みのある手遊びだったので、子ども達も楽しんで行っていた。 ・ピアノ伴奏だったので、子ども達のペースに合わせて行う事が出来た。間奏のメロディーもノリが良く、子ども達も気に入っていた。 ・保育士から「次〇〇だよ」と声かけがあり、分かりやすかった。
3/19 (木)	【場所】 なかよしホール 【時間】 15:30~	誕生会 「キャベツの中から」 「ぱちぱちぼ」	・実物（キャベツ、青虫）があり、子ども達の反応も良かった。 ・青虫に動きがあり、子ども達は楽しんで見ていた。 ・チョウチョを活用しての導入は良かったが、前に集まったままだったので、動きをつけたら良かったと思う。また、手遊びが終わってからも余韻を楽しめるように、チョウチョを活用しながら帰る事が出来れば良かったと思う。 ・普段行っている手遊びなので、みんなで楽しめた。
3/25 (水)	【場所】 なかよしホール 【時間】 10:10~	お別れ会 「とんとんねるねる」 『みてみてフリフリダンス』	・今年度から全クラスでお別れ会を行う様になった。 ・パネルシアターの「とんとんねるねる」では、子ども達も知っていたり、聞いた事があり、振りも覚えやすく楽しんで行っていた。内容も分かりやすく喜んで見ていた。保育士の引き付け方も面白かった。 ・騒がしくなり、ふざけてしまう子がいたのが残念だった。声をかけるだけでなく、別の関わり方や進め方の工夫も必要だった。 ・落ち着きの無い子が目立ったので、手遊びなどをして落ち着かせたり、引き付ける工夫が必要だった。

《まとめ》

- ・ 毎月全クラスの子供達が集まり、歌や手遊び、ダンスをする機会を設け、みんなで楽しむ事が出来たので良かった。異年齢児と関わる良い機会となった。
- ・ にこにこ会の中で、他クラスともっと触れ合えるような物を取り入れられると良かった。
- ・ 生演奏を多く取り入れることが出来て、良かった。
- ・ ペープサートやお面など、手作りの物を利用して見せる事が出来たので良かった。
- ・ 手遊びやリズム遊びなど統一して決めた事が、各クラスに浸透していなかった事が残念だった。
- ・ 全クラス一緒に歌や手遊び、ダンスをして楽しむだけでなく、各クラスから子ども達の発表として、見せ合う場を設けても良かった。
- ・ にこにこ会や誕生会の発表を行うだけでなく、「遊び」について広い範囲で、様々な内容についての話し合いを深める事が出来れば良かったと思う。

平成20年度 保育所研修報告

月	日	事業所	研修名	開催場所	研修内容・対象者	研修者
4月	11日	社会福祉研修	保育所新任保育士研修	郡山市 郡山ユラックス熱海	保育士として求められる基本的事項	佐藤 歩 荒真 奈美 高橋 優子
5月	2日			鳥川保育園	視察研修	中井田多美子
	7日～9日	社会福祉研修	社会福祉施設新任職員研修(2班)	福島市 福島県総合社会福祉センター	業務経験2年未満の職員	荒真 奈美
	13日	県保育協議会相双支部	施設長部会	南相馬市原町区		中井田多美子
	14日	県保育協議会相双支部	保育支部会	大熊町		齊藤 ひろみ
	15日	県保育協議会相双支部	給食部会	浪江ふれあいセンター		菅野 幸子
	19日			鳥川保育園	視察研修	齊藤 ひろみ
6月	2日～4日	自主研修		鳥川保育園	保育研修	今野 恭子 菅野 佳那
	9日～11日	自主研修		鳥川保育園	保育研修	佐藤 恵 菅野 真希子
	16日～18日	社会福祉研修	社会福祉施設新任職員研修(4班)	福島市 福島県総合社会福祉センター	業務経験2年未満の職員	佐藤 歩
	18日	県保育協議会相双支部	学習会	原町区	「笑顔の増える親子」	佐藤 廣子
	20日	社会福祉研修	保育所保育士専門研修Ⅰ	郡山市 郡山ユラックス熱海	乳児保育について	菅野 真希子
	21日	県保育協議会相双支部	学習会	原町区	リズム講習会	清野 悠
7月	2日～4日	社会福祉研修	社会福祉施設新任職員研修(5班)	福島市 福島県総合社会福祉センター	業務経験2年未満の職員	高橋 優子
	9日～10日		防火管理者講習会			中井田多美子 齊藤 ひろみ
	31日			福島県自治会館	改定保育指針に関する説明会	中井田多美子
	31日			原町区	交通安全研修会	今野 恭子
8月	6日			南相馬市農村環境改善センター	集団給食施設等従事者講習会	菅野 幸子
	6日～8日			福島市	幼児教育実技講習会	佐藤 恵
	7日	社会福祉研修	保育所保育士専門研修Ⅱ	福島市 コラッセふくしま	障害児保育について	土屋 純子
	21日	県保育協議会相双支部	施設長部会	南相馬市原町区		中井田多美子
9月	2日		職員研修実習 依頼	社会福祉法人松葉福祉会 福島東保育園		中井田多美子
	10日～12日	社会福祉研修	中堅職員研修(3班)	福島市 福島県総合社会福祉センター	業務経験5年以上	今野 恭子
	16日 17日			社会福祉法人松葉福祉会 福島東保育園	保育研修	菅野 真菜美 三浦 真希
	18日 19日			社会福祉法人松葉福祉会 福島東保育園	保育研修	花井 あゆみ 土屋 純子

10月	3日		飯館村立幼稚園教育研究会研究会	宮城教育大学附属幼稚園	「公開研究会」の参加	佐藤 恵 桑折 美由紀 菅野 真菜美
	10日	県保育協議会相双支部	学習会	大熊町	福島県図書研究大会	三浦 真希
	22日	県保育協議会相双支部	保育支部会 給食部会	南相馬市原町区福祉会館	新「保育所指針について」	今野 恭子 菅野 幸子
11月	13日 14日	社会福祉研修	中堅職員フォローアップ研修	福島市 福島県総合社会福祉センター	中堅職員研修課程を修了した者	今野 恭子
	18日	社会福祉研修	保育所給食関連研修	郡山市 労働福祉会館	食育を実施する上での他職種の連携について	細山 裕一
	20日	福島県運営適正化委員会	福祉サービスに関する苦情解決研修会・基礎課程	福島県農業総合センター	「事業所における苦情解決のすすめ方」 「福祉サービスに関する訴訟について」 他	齊藤 ひろみ
12月	10日	県保育協議会相双支部	保育支部会	大熊町		齊藤 ひろみ
	11日	相双保健福祉事務所	感染症予防対策研修会	県南相馬合同庁舎	感染症対策・予防策などについて	花井 あゆみ
	18日	社会福祉研修	指導管理者研修	郡山市 労働福祉会館	保育指針をふまえた保育実践と子育て支援	中井田多美子
1月	16日	県保育協議会相双支部	施設長部会	楡葉町～施設見学		中井田多美子
2月	14日	県保育協議会相双支部	相双支部総会	原町区		中井田多美子 花井 あゆみ

《反省》

- ・ 研修したことを職員会で報告し、他の職員へもフィードバックすることが出来た。
- ・ フィードバックされた研修内容を、実践にうつすことが出来なかった点もあった。
- ・

保育研修に行くことで、他の園の保育も見れ、「自分のところではどうか？」等の見つけ直す機会ともなった。